

阪急長岡天神駅周辺整備基本計画推進委員会

第2回 議事録

日 時：令和8年7月1日（水）午後14時から午後16時00分まで

場 所：長岡京市役所8階 会議室801・802

出席委員：大庭委員長、佐伯委員、平尾委員、辻委員、鷹野委員、山添委員、三好委員、橋本委員、八木委員、福西委員、生駒委員、浅田委員、齊藤委員、山村氏（廣川委員の代理）、越智委員、抱江委員、北野委員、筒井委員、鎌田委員、上村委員

庁 内：末永副市長、兒島理事、日高建設交通部長、上野都市計画課長、坂出交通政策課長、鳥居次長兼公共資産活用推進室長、稲葉商工観光課長、田端参事兼福祉連携室長

事務局：[まちづくり政策室] 柳沢室長、橋元専門監、山本室長補佐兼係長、藤井主査
株式会社アール・アイ・エー宮本部長、尾崎シニアフェロー、内田主任、松井担当

会議の公開の可否：公開

傍 聴 者：2名

会議次第：1. 開会

2. 案件

- ・駅前広場の計画方針について

3. 報告

- ・事業実施計画の作成に向けた調査取組の結果について

4. 閉会

配付資料：資料1 第2回委員会の開催趣旨とご議論いただきたい主な観点

資料2 駅前広場の計画方針について

資料3 市民アンケートの結果概要

資料4 施設需要調査の結果概要

1. 開会

- ・開会（以上、事務局より）
- ・委員長あいさつ

2. 案件

- ・駅前広場の計画方針について
- ・事務局より内容を説明後、質疑及び意見を聴取。
- ・以下、意見交換の要旨

（交通広場について）

- ・短時間駐車場等の車を呼び込む仕掛けを設けると必ず車は来てしまう。ルールが守られなければ、短時間駐車場を設けたとしても結果的に想定していた以上の車を招き込み、車のための広場となって、元々の賑わいや憩いの場という意義が薄れてしまうのではな

いか。この交通広場に短時間駐車場が本当に必要かどうかは検討すべきと思う。

- ・長岡天神駅の東口に暫定ロータリーや駐輪場が整備され、西山天王山駅には市営駐車場や観光バスが入れるロータリーがあることもふまえ、長岡京市内の阪急各駅のそれぞれの駅前の役割を整理してまちづくりを進めるのが良いと思う。そのうえで、今回の西口の交通広場についても一定の秩序が保たれるよう、限られたスペースの中で本当に必要な機能を整理することが重要だと考える。
- ・駅前広場は、まずは歩行者や公共交通でのアクセスを重視しつつ、加えて車利用者への対応という視点でも検討を進めるのが良いと思う。交通広場のそれぞれの機能から駅改札口までのルートがこれで良いのかどうかをふまえ、タクシー乗り場やバス乗降場、横断歩道の位置など、交通広場の機能や配置を丁寧に検証する必要があると思う。
- ・長岡天満宮の観光シーズンには、天満宮の前の道路で観光バスが乗り降りしており、非常に危ない状態であり、駅前の交通広場で乗り降りするのが望ましいと考えている。
- ・一方で、観光バスの乗降場を常時設けることは他の機能を削減することになるため、そのスペースの必要性については議論の余地があると思う。観光バスの乗り降りの安全性だけを考えるのであれば、必ずしもスペースを確保するのではなく、一時的に駐車を認める等の運用を図ることも考えられる。観光バスを駅前広場の中で扱うのか、天神通り等のそれ以外の場所で扱うのか、引き続き議論したいと思う。
- ・駅前広場におけるタクシーの運営面では、駅前広場が行政の所有する公共空間となると誰でも入れることから、秩序が保たれていないケースがある。例えば、駅前広場への入構権を設ける等の適切なルール作りも視野に入れて欲しい。

(駅と交通広場の距離や動線について)

- ・コミュニティバスの乗降場から駅まで 45mほどで、実際にはもう少し歩くことになるが、容易に駅へ行けるといふ人もいれば、少し長いと感じる人もいると思う。人によって多様な感じ方があると思うが、容易に交通広場までたどり着ける、歩きやすい動線の整備は必要だと思う。
- ・歩行動線に屋根があるのとないのとでは大きな違いがあるので、屋根があると非常にありがたい。

(憩い・賑わい広場の意義や活用方法について)

- ・開けた広場によって、駅を降りて西山がずっと見えるイメージは、アンケート結果にもある「西山」「長岡天満宮」「空が綺麗」といった長岡天神らしさにも繋がると思う。東京駅の丸の内口から皇居がまっすぐ見えるように、両サイドに建物があっても真ん中が抜けていて西山が見えるような景観は非常に良いのではないかと考える。
- ・駅を降りてすぐにロータリーがある場合、お店を回ってもらうには不利な配置だと思う。西地区整備計画のような憩い賑わい広場ができれば、店舗への人の流れを作りながら、ロータリーにもアクセスできるため非常にありがたいと思う。
- ・駅前広場には有事の際の防災機能も重要だと考える。これだけの広場があれば避難場所

として活用できると思う。他都市の駅前広場では、ベンチの下に炊き出しのかまどを収納したり、携帯の充電ができたり、マンホールが簡易トイレになったりする防災機能を備えている例があるので、計画に盛り込んではどうか。

（観光の活性化について）

- ・観光バスの乗り降りが駅前であれば観光客による消費行動が地域にお金を落としていくことも期待できる。
- ・観光の活性化に向けては、まちの個性の確立や市民アンケートでもあった「長岡天満宮の境内が駅前までにじみ出してきたような風景」や「参道の延長としての駅前広場」といった意見もあったため、そうした設えを計画に落とし込むことも検討して良いと思う。

（人口減少社会における高度利用を伴うまちづくりについて）

- ・計画の実現には、おそらく20年ほどかかると思う。これから当市も人口減少を迎える中で、空室の多い施設とならないよう、20年後にどれ程のポテンシャルを持っているのかを綿密にシミュレーションしたうえで構想していくべきと考える。
- ・人口減少をふまえると、店舗数も8万人の人口に見合う規模にする必要があると思う。また、当市は、通勤・通学等による市外への流出超過（昼間人口が夜間人口を下回る状態）のまちであり、高齢化も進んでいるため、単に人口を増やすだけではなく、昼間に市外から人が来てもらえるようなオフィス等の誘致も検討するべきと考える。高度利用を図るのであれば、オフィス機能も施設に設けるべきではないかと思う。
- ・八条が丘のマンション群は高齢化率が37%と高く、山手側の地域ではもっと高い状態である。そうした駅から離れた地域に住む高齢者が、利便性の高い駅前に住み替える先として駅前のマンションの価値はあるのではないか。そしてこれは、人口減少が進む中で、人が点在して住むのではなくまちの生活拠点に集約して住まうというまちの在り方にも関わってくると考える。
- ・20年後を見据えたまちづくりを考えるうえで、近隣市町の駅前開発の事例など、成功・失敗事例の情報があれば参考にするため、提示して欲しい。
- ・高齢者が集いやすい中心部にしたい。今後も高齢化は進むため、高齢者が食事や買い物ができる場所、まちなかに出やすくなる場所をつくってもらいたい。

3. 報告

- ・事業実施計画の作成に向けた調査取組として、施設需要調査の結果について説明（事務局より）

4. 閉会

- ・次回年内を目途に開催予定（事務局より）

以上